

わたしと教科書

愛知県 名古屋市立萩山中学校 1年
服部 真奈

今年の四月、私は中学生になった。小学校の頃とは違い、教科が増え、教科ごとに先生が変わるといふ、新しい環境の中での勉強が始まった。教科書があり、さらに便覧や資料集、地図帳等もあるので、本当にすごい量。最近はもう慣れたけど、毎日登校する時に持っていくカバン（リュック）の重さを量った時があったが、10キロ近くもあった。学校までの道のりは片道約30分。毎日、ある意味筋トレしている事になるのかも。

教科書について母と話した事がある。教科書が重いか、資料が多いとか母に愚痴をこぼした時に母が私に言った。

「学校に行けて、教科書までもらって勉強できるなんて本当に幸せなんだよ。教科書が重かって事は、それだけ色々な事が書いてあって、分厚くなっているんだよ。多分、新しく手にする教科書には今まで知らなかった事が沢山書かれていて、それを覚えたりしたらすごく人生の中で得した気分になるし、例えば社会などの歴史資料なんかがあれば、見ていて楽しいし、写真や絵を見ているだけであたかもその時代にタイムスリップした気分にもなれるよね。」

それを聞いて私は、なんてポジティブな人なんだろうと思った。だけど母の様に教科書に対する気持ちを変えれば、勉強がとても楽しくなるかもしれないし、教科書の有り難みが分かるかもしれないと思った。

私は小学校一年生から六年生までの全教科の教科書、資料を捨てずにとってある。これは、母がいつかこの教科書を見る時がくるからと言ってクローゼットの中にしまっているのだ。私には五歳はなれた妹がいる。妹は今小学二年生。妹は少し母の考えに似ている所がある。一年生の時は、誰しも新しい教科書に胸踊らせ勉強が楽しかった。二年生になり新しい学年で新たに教科書がもらえるが、一年の頃よりは期待もうすれていた様におぼえている。ただ妹は違う。一年生の頃よりも喜んでいて。妹が二年生になり、新しい教科書をもってきた時、妹は母と私に言った。

「今日、学校でね新しい教科書をもったの。そうしたら、教科書の字が小さくなって、いっぱい字が書かれているんだよ。教科書の厚さは変わらないけど、一年生の頃よりいっぱい色々な事を勉強できるってことだから、私は嬉しくって。」

そんな妹を見て、私はどうだったかと自分が小学二年生の頃を振り返った。だけど、その頃の自分を思い出すことは難しく、一体自分がどういう気持ちだったのか分からないままだった。

九月になり、妹の学年でやる学芸会の演目が決まった。演目は『スイミー』。妹は『スイミー』を読んでみたいと言うので、早速図書館に行き借りてこようとしたが、残念な事に貸出中。私は思い出した。確か小学二年生の国語の教科書で『スイミー』を勉強した事を。国語の上か下かは忘れていたけど、確かに二年生で習った事は覚えていた。妹の今の教科書に『スイミー』はないのかと見せてもらったが、新しい教科書に『スイミ

一』は見つからなかった。それなら、と私は母が教科書をしまってあるというクローゼットを開け、なぜか夢中で小学二年生の国語の教科書を探した。上下両方きれいにしまっていた。私は上を開いて見た途たん、

「やっぱり！二年生の時に『スイミー』を習っていたんだ。当たった！」

と叫んでいた。

夢中で探していたのは、私の記憶を確かめたかったからかもしれない。久しぶりに読む小学二年生の教科書。懐かしかった。

妹が『スイミー』を読み終えた時、私に感想を言ってきた。そして、教科書を開いて、「お姉ちゃんは『スイミー』のお話が好きだったんだね。だって、教科書に感想がいっぱい書いてあるよ。」

私はその頃の自分を少し思い出した。今の自分とは違って、もっと教科書をワクワクしながら隅々まで読んでいた。そして、教科書の隙間に感想やら、重要な所には丸で囲ったりしていた。なんだか妹のお陰で教科書に対する気持ちを思い出すことができた。

その日は、家族で懐しい教科書の話で盛り上がった。

教科書は基本勉強する為に、知識を増やす為にあるのかもしれないが、教科書のお陰で人とコミュニケーションがとれたりする事もある。中学の数学の教科書で分からない問題があって前の席の子に教えてもらった。この事を通じて友達になれた子もいる。教科書には、目で見えない不思議な力をまだまだもっているのかもしれない。そんな気持ちで教科書を読んでいると、少し楽しくなる様な気がした。